科目名	神経心理学			ナンバリング	PSY242	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	滝浦孝之	担当教員					

授業の概要	脳の損傷と関連する認知・行動の障害に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。言語、記憶、運動、コミュニケーション、実行機能等、人間の複雑で高度な活動を可能にしている高次脳機能の障害と、脳、とりわけ大脳皮質の損傷部位との対応に関してこれまで蓄積されてきた知見に基づき、脳における機能局在、および脳内の複数の部位間を結ぶ情報処理ネットワークについて具体的に解説する。
到達目標	1. 個々の高次脳機能の概念を正しく説明することができる。 2. 構成概念である個々の高次脳機能と実体概念である脳の各部位における神経活動との対応関係が説明できる。
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な予備知識など）	構え、選択的注意、作業記憶といった心理学における基本的概念、および正規分布や標準偏差等の記述統計学における基本的概念（数式を暗記していることは要求しない）を習得していることが望ましい。従って「心理学概論」等の心理学に関連する科目、および統計学に関する科目を履修していることが望ましい。

ディプローマポリシーとの関連	【教養学部　地域教養学科のディプロマポリシー】
○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル（合格ライン）の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 脳に関する基本的な用語と認知に関する基本的な用語を理解している。 2. 脳機能が実体概念ではなく構成概念であることを、平易な言葉で説明できる。 3. 二重乖離の原則について正確に理解している。 4. 大脳皮質が特定の部位を中心に損傷を受けた場合に、典型的に観察される高次脳機能障害の具体的症状について説明できる。	1. 神経心理学における操作的諸概念の有効性とともに、その限界についても理解している。 2. 脳損傷者を対象とした伝統的な神経心理学が明らかにしようとする内容と、健常者を対象とした脳機能画像研究が直接明らかにしようとする内容との相違について自分の言葉で説明できる。 3. 個々の高次脳機能に関する脳活動は、その機能の中枢とされる部位のみで営まれるのではないことを、いくつか具体的な例を挙げて自分の言葉で説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験（中間・期末試験）	○	○					70%
小テスト・授業内レポート	○						30%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
出席			○	○			加点はなし。欠席は減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	1. 毎回予習内容に関する小テストを行い、解答提出時に解答例を配布し、その解説を行う。 2. 期末試験解答用紙は、要請があればいつでも開示できるよう準備しておく。

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第１回	高次脳機能障害と神経心理学	神経心理学の位置づけ、障害の概念、高次脳機能の定義、脳の損傷と高次脳機能障害との一般的な関係について解説する。	【予習】大脳半球外側面（がいそくめん）、大脳半球内側面、脳梁（のうりょう）、大脳皮質、大脳辺縁系
	第2回	非侵襲的脳機能計測法	神経とシナプスについて解説し、また脳波（EEG）、CT、MRI、fMRIのそれぞれの原理と特性について解説する。	【予習】シナプス、シナプス後電位（こうでんい）、脳波、CT、MRI
	第３回	言語障害	失語の代表的症状、失語の種類（ブローカ失語、ウェルニッケ失語等）と脳の損傷部位との関係について解説する。	【予習】言語中枢、ブローカ（またはブロッカ）失語、ウェルニッケ失語
	第４回	高次の視覚障害(1)	視覚失認の種類（統覚型、統合型、連合型失認）と脳の損傷部位との関係、相貌失認の症状と脳の損傷部位との関係について解説する。	【予習】モダリティ、失認、心的イメージ、顔ニューロン（または顔細胞）
	第５回	高次の視覚障害(2)	半側空間無視、バリント症候群、構成障害のそれぞれの症状と脳の損傷部位との関係について解説する。	【予習】空間的注意、視覚探索
	第６回	高次の聴覚障害	皮質聾、語聾、環境音失認のそれぞれの症状と脳の損傷部位との関係について解説する。	【予習】聴覚器官、一次聴覚野、内側膝状体（ないそくしつじょうたい）、聾（ろう）
	第７回	高次の運動障害	失行の症状と脳の損傷部位との関係について解説する。	【予習】失行（しっこう）、身体図式、帯状回（たいじょうかい）
	第８回	遂行機能障害	遂行機能、特にセットの転換、作動記憶、選択的注意、意思決定のそれぞれの障害と脳の損傷部位との関係について解説する。	【予習】遂行（または前頭葉）機能機能、構え（またはセット）、作動（または作業）記憶
	第９回	脳の発達	胎児期から青年期にかけての脳の発達的変化、および高齢期における正常加齢に伴う認知機能の変化と脳の変化との関係について解説する。	【予習】シナプスの刈り込み、敏感期（または感受性期、感受期、臨界期）、脳の可塑性（かそせい）
	第１０回	小児の高次脳機能障害	自閉症スペクトラム障害の概念、基本的症状、心の理論、健常児との脳機能の差異について解説する。	【予習】発達障害、自閉症スペクトラム、アスペルガー症候群、心の理論
	第１１回	記憶の障害	記憶の種類とそれらの間の関係、記憶障害と脳の損傷部位との関係について解説する。	【予習】即時記憶、近時記憶、宣言的（または陳述）記憶、エピソード記憶、手続き的記憶、海馬（かいば）
	第１２回	統合失調症における高次脳機能障害	統合失調症の基本症状の根底にある認知機能障害、およびそれと脳の機能低下部位との関係について解説する。	【予習】（統合失調症の）陽性症状、陰性症状、寛解（かんかい）
	第１３回	客観的心理検査の基礎	認知機能の客観的評価を目的とする心理検査の基本思想と基本用語、客観的検査の満たすべき条件について解説する。	【予習】心理アセスメント、正規分布、（統計用語の）相関、信頼性、妥当性
	第１４回	知能の客観的評価	代表的な知能検査の立脚する知能観、評価対象である知的機能の内容、IQの意味、知能検査による知能測定の限界について解説する。	【予習】知能観、偏差値知能指数、流動性知能・結晶性知能
	第１５回	認知症	認知症の概念、中核症状と周辺（または行動・心理）症状、認知症の種類と脳の損傷部位との関係、および認知症スクリーニング検査について解説する。	【予習】見当識（けんとうしき）、脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症、前頭側頭型認知症
	試験	講義を全て終えた後に、講義内容の全体を出題範囲とする期末試験を実施する。期末試験は論述形式で行う。試験実施日は掲示板に掲示されるので、必ず確認すること。		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とする。毎回の講義の最初に、上の「授業計画」の備考欄に記載されている用語に関する小テストを実施する（参考資料の持ち込みは可）。		
授業外学習の指示		毎回、上の「授業計画」の備考欄に記載されている用語の学習を中心に予習を行い、授業後は配布資料を中心に講義内容を復習する。不明な点は図書館に所蔵されている資料等を用いて調べるか、教員に質問すること。 （授業外学習時間：　毎週　　90　　分）		

教科書	毎回プリント資料を配布する。教科書は使用しない。
参考書	必要に応じて指示する。
参考URLなど	なし。
その他	